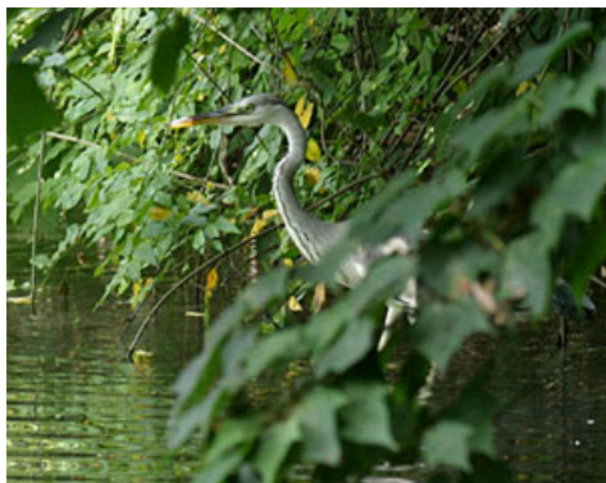


理学部附属 植物園のいきものたち

第20回

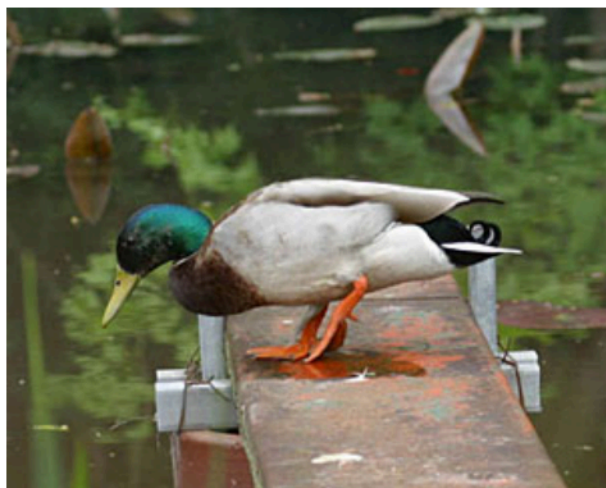
今回は植物園で見られる水鳥を紹介します。



▲写真1:アオサギ

植物園の池は小さいので定住している水鳥はいないが、採餌に飛来する水鳥は何種類かある。アオサギ(写真1)、コサギ、マガモ(写真2)、カワセミなどである。

アオサギは日本のサギ類では最大の鳥で、以前は都会ではあまり見られない鳥だったが、ここ20年くらいのうちに都会の河川や池でごく普通に見られるようになってきた。都会の環境に適応して生活習性を変えてきたらしい。京都市内でも鴨川などで、ごく普通に見られるし、府立植物園の池に居ついている個体は餌付いてしまっている。シラサギ類と違って青灰色の体色なので識別は容易である。植物園の池にはよく採餌に訪れているが、人が近づくとすぐに藪に隠れてしまうのであまりゆっくりは見られない。漢字では「蒼鷺」と書き、古くは「ミトサギ」と読んでいたが、江戸時代頃までに「アオサギ」と呼ぶようにならってきている。



▲写真2:マガモ

マガモは光沢のある緑色の頭部が特徴で、古くから「アヲクビ」の別名がある。他のカモ類と同様、派手な羽色が美しいのはオスだけでメスは地味な色をしている。マガモはカモ類の中でも最も美味な鳥として古くから珍重されてきたようである。マガモを家禽化したものがアヒルである。ちょうどフナと金魚、イノシシとブタのような関係にある。植物園の池では最近あまり見られないようである。この写真は2003年4月に撮影したものである。

(写真・解説 樋上正美)